

行歯会だより 第86号

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)



【今月の記事】

- 1 国立保健医療科学院における「歯科衛生士研修」と
「歯科保健研修」の17年間の軌跡とこれから
国立保健医療科学院・生涯健康研究部 安藤雄一
- 2 国立保健医療科学院研修報告
杉並区立高円寺保健センター 柳澤洋子
- 3 都道府県世話役が決まりました！
行政歯科技術職員連絡会会長
佐賀中部保健福祉事務所副所長 岩瀬達雄

☆国立保健医療科学院における「歯科衛生士研修」と 「歯科保健研修の17年間の軌跡とこれから☆

国立保健医療科学院・生涯健康研究部 安藤雄一

●はじめに

国立保健医療科学院（2001年度までは国立公衆衛生院）における歯科専門職に対する研修は1996年度に「歯科衛生士研修」が開始され、2009年度から「歯科保健研修」として歯科医師も対象に加わって過去17年間継続されてきました。

しかしながら、受講者数が減り続け、本院における短期研修の定員の基準としている20名に満たない状況が続いたため、歯科専門職向けの研修は今年度をもって一区切りとし、次年度から「歯科口腔健の推進のための企画・評価・運営研修」として内容を一新することになりました。

これを機に、今まで公衆衛生院～科学院にて歯科専門職向けとして行われてきた歯科衛生士研修～歯科保健研修の17年間の軌跡を簡単に総括し、歯科口腔保健の人材育成についての展望を述べてみます。

●受講者数の推移

次ページ右図（棒グラフ部分）は過去の受講者数の推移を示したものです。開始当初は40名強でしたが次第に減少し、近年では10名強という状況でした。一方、累積受講者数は17年間で延べ400名近くにのぼり、行政に勤務する歯

科医師・歯科衛生士数が約千人という現状を踏まえますと、かなりの割合が受講したことになり、歯科専門職に対する人材育成として、一定の役割は終えたと解釈できます。

●研修内容の変化

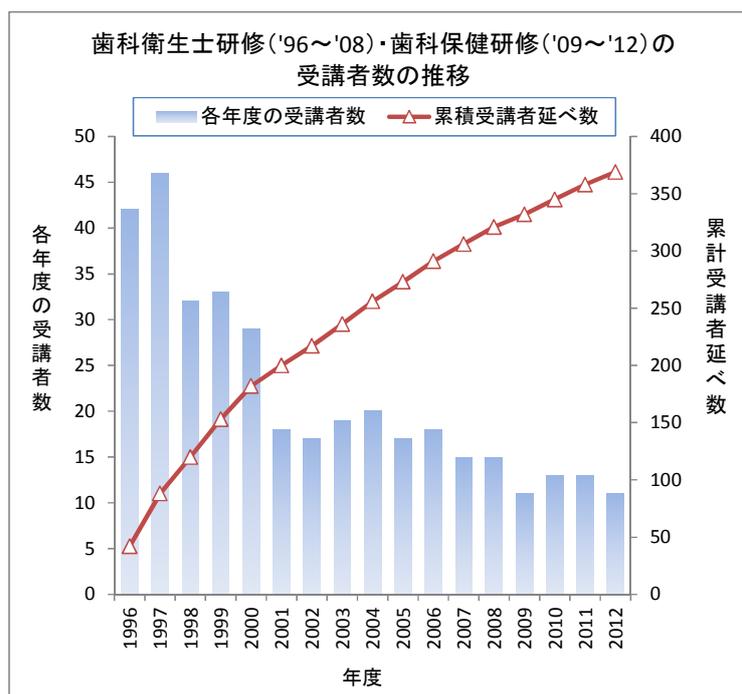
私が本研修を担当したのは科学院ができた2002年度からで、11年間担当しましたが、この間における変化などについて述べてみます。

内容的に大きく変わったところは、受講者の声（写真）を受けて、講義中心から演習中心になった点です。「現場で使える企画を演習（グループワーク）で考える」ことを重視してきたつもりですが、なかには実際に事業に反映されたものもあります。

このほか、私が関わった当初はフッ化物利用について他人事というスタンスの方が多かったようですが、10年余でかなり減ってきた点も印象的です。

●歯科口腔保健における人材育成のあり方

歯科口腔保健法および基本的事項が制定されたことが示す意義の一つに、「歯科口腔保健は歯科専門職だけが担うものではない」という点があります。当面の課題として、歯科専門職でない人達を対象とした人材育成をどうするかが重



この写真は2002年度の受講者の方々が研修で習ったMIDORI (Precede-Proceed)モデルを用いて「歯科衛生士研修の向上」をテーマに寄宿舎にて自主演習に興じている風景です。結論は「演習を多くして実践的な内容が必要」でしたので、次年度から大いに参考にさせていただきました。

要になると思います。そのような背景を受け、科学院における次年度からの研修は名称を「歯科口腔保健の推進のための企画・評価・運営研修」として歯科専門職以外の方々も対象として行う予定です。

http://www.niph.go.jp/entrance/h25/course/short/short_hoken12.html

かような状況下での歯科専門職が果たすべき役割およびその人材育成のあり方として、

- ・効果的な歯科口腔保健推進を図るために多様な職種・人材を「つなぐ」役割
- ・広域的な人材活用（関与できる部局と地域の広域化）

が必要で、現在、調査研究等にも取り組んでいます。いずれ研修に反映できるようにしたいと思います。

☆国立保健医療科学院研修報告☆

杉並区立高円寺保健センター

歯科衛生士 柳澤 洋子

平成25年1月7日から2月15日まで、国立保健医療科学院にて「歯科保健研修」が行われました。

この研修は毎年行われており、インターネットを使用しての遠隔研修（25日間）と、科学院内で行う集合研修（5日間）の2部構成になっています。

研修目標は「地域における歯科保健施策推進の中心的担い手として期待される行政職が、効果的な歯科保健施策を自身の地域及び近隣地域で普及を図っていくための知識及び技術を修得すること」とあり、すぐに実践で活用できる最新情報満載の講義と企画演習で、とても濃厚なものでした。また、第一線で活躍されている先生方のご講義はもちろん、普段はなかなかお会いすることのできない各地の歯科職の方と様々な情報交換が行える場としても、とても有意義な研修だと思いました。

今年度は北海道から兵庫までの歯科保健担当者（歯科医師2名・歯科衛生士9名）の参加がありました。

遠隔研修は、保健医療科学院ホームページ内の遠隔研修サイト上で行われました。

前半の内容は、集合研修の事前準備として知識の提供（講義）や、個別の課題の整理・発信でした。

研修主任の安藤雄一先生と研修副主任三浦宏子先生からいただいた課題に回答していくものでしたが（地域診断・う蝕、歯周病予防について・高齢者歯科保健について）、解っているつもりで過ぎていたことを改めて確認・整理して書くことにより、知識として更に定着させることができました。（不足してい

たことにも気が付きました・・・) 自分の回答だけでなく、他の受講者の方の回答も見ることができたのですが、解りやすいまとめ方や丁寧な回答、とても参考になりました。

集合研修は5日間行われました。初めてお会いする方ばかりで緊張しましたが、隣席の方と他己紹介などすることですぐに和んだ雰囲気となりました。今回の皆さんはとても気さくで優しい方ばかりで、すぐに打ち解けることができました。お昼休みには科学院の明るい食堂で美味しいランチをいただきながら、各地区の情報交換や悩み相談をする姿が見られました。(もちろん、仕事以外のお話もたくさんありました!!) 楽しく時が流れ、1週間でお別れしてしまうのが残念なほどでした。

研修のプログラムについては講義と演習・グループワークのバランスが良く、講義で受けた内容をすぐに演習することにより理解を深めることができました。

講師は本当に著名な先生方ばかりで、11名で受けるにはもったいないようなご講義でした。講義順に内容(タイトル)をご紹介します。

・滋賀県甲賀保健所 所長・井下英二先生

「歯科医師が保健所長になった経緯・歯科口腔保健法およびその基本的事項の論点・エビデンスに基づいた歯科医科連携事業について(演習あり)」。

・厚生労働省医政局歯科保健課 課長補佐・小椋正之先生

「法律(法令)について・歯科口腔保健の推進に関する法律・チーム医療の推進・歯科専門職の資質向上・厚生労働省の予算」。

・佐賀中部保健福祉事務所 副所長・岩瀬達雄先生

「むし歯は、歯磨きだけじゃダメ!～みんなで取り組む歯と口の健康づくり(佐賀県の歯科保健 人材育成など)」。

・埼玉県狭山保健所 保健予防担当課長・石川清子先生

「フッ化物によるう蝕予防対策【地域実践例】」

・日本歯科医師会 地域保健委員長・深井穂博先生

「歯科医師会との連携 新しい成人歯科健診プログラムの普及方法」

・国立保健医療科学院 企画調整主幹・曾根智史先生

「公衆衛生行政の方向性」

・三重県津保健福祉事務所保健衛生室健康推進課 主幹・石濱信之先生

「成人歯科保健対策(演習あり)」

また、保健医療科学院の先生方からは、「地域診断から企画・評価までの流れ」、「フッ化物によるう蝕予防対策」、「高齢者歯科保健における関係者分析～歯科と栄養との連携を事例として～」のご講義をいただきました。

企画演習のグループワークでは、最初に各自が企画検討したい事例を上げ、近い内容の数名でグループを作り作業に入りました。講義で得た知識を活かし、

限られた時間の中で情報収集をして1つに組み立てていく作業は大変でしたが、実際、現場に戻ったときには十分活かせる体験となりました。

後半の遠隔研修は、グループワークと同じ作業を個人で行い相互評価をするものでした。

切り口は様々ですが、全てが歯科保健向上に向けて繋がっているものだと実感しました。各地での取り組みや法律が施行されてからの動きなど、ぜひ私の地域でも参考にさせていただきます。

またこの研修で、安藤先生が「質問をすること」も課題の1つに挙げていらっしやいました。ただお話を聞いて解ったつもりでいるだけでなく、解らないところや疑問に思うことはすぐに質問をする。そうすることで知識や思考力がより身に付くとのことでした。この研修では、企画演習などを通して受講生同士のやり取りを活発に行うことにより、お互いに質問力と回答力が養われたと感じました。

研修を受けると言うことは、個人の知識獲得はもちろんですが、周囲への伝道者となり情報を共有することも大切です。今回得た様々な情報は、職場で待つ同僚の歯科衛生士にも伝達していきます。

この不況な世の中、行政も人員や予算が削減され厳しい状況が続いています。しかし、少ない中でも出来ることを検討し、行政内の様々な職種や部署（保健師・栄養士など）や地域の団体（歯科医師会・歯科衛生士会など）と連携し、巻き込みながら前に進んで行きたいと思えます。

最後になりましたが、研修主任の安藤雄一先生、研修副主任の三浦宏子先生・守屋信吾先生・米澤純子先生、大変お世話になりました。今後の歯科保健活動に活かして行きたいと思えます。

一緒に研修を受講した皆様、楽しく有意義な時間をありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

☆都道府県世話役が決まりました！☆

行政歯科技術職員連絡会会長
佐賀中部保健福祉事務所副所長
岩瀬 達雄

会員の皆さまには、日頃から、行歯会の活動にご協力いただきありがとうございます。

さて、今年度取り組んでまいりました、会員情報の更新、世話役の設置につきましては、会員の皆さまをはじめ担当理事の皆さまのご努力でようやく整えることができました。

今後、異動、退職による登録情報の変更、新規入会等の届出につきましては、

世話役にご連絡いただきますようお願いいたします。

この会員情報をリアルタイムに更新することにより、行歯会の最も得意とする「会員同士の情報交換」を確実に行うことが可能となります。世話役の皆さまには多少ご負担をおかけしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。

ブロック	都道府県	世話役	性別	職種		所属	
北海道	北海道	佐々木 健	M	Dr	道庁	北海道保健福祉部健康安全局	
東北・甲信越・北陸	青森県	金澤 孝彦	M	Dr	県出先	青森県東地方保健所	
	岩手県	栃内 圭子	F	Dr	県庁	岩手県保健福祉部健康国保課	
	宮城県	高橋 明子	F	DH	仙台市	仙台市健康福祉局保健衛生部健康増進課	
	秋田県	大島 克郎	M	Dr	県庁	秋田県健康福祉部健康推進課	
	山形県	鍛冶山 徹	M	Dr	県庁	山形県健康福祉部保健薬務課	
	福島県	沼田 匠	M	Dr	県庁	福島県保健福祉部健康増進課	
	新潟県	永瀬 吉彦	M	Dr	県庁	新潟県福祉保健部健康対策課	
	富山県	片岡 照二郎	M	Dr	県庁	富山県厚生部健康課	
	石川県	玉野 みづよ	F	DH	金沢市	金沢市保健所	
	福井県	市川 郁恵	F	DH	県出先	福井県福井健康福祉センター	
	長野県	永井 明子	F	Dr	県庁	長野県健康福祉部健康長寿課	
	山梨県	岡安 こずえ	F	Dr	県庁	山梨県福祉保健部健康増進課	
	関東 I	茨城県	石塚 英子	F	DH	県庁	茨城県保健福祉部保健予防課
栃木県		青山 旬	M	Dr	県庁	栃木県保健福祉部健康増進課	
群馬県		石川 博美	F	DH	県庁	群馬県健康福祉部保健予防課	
千葉県		山崎 典子	F	DH	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市健康増進課	
東京	特別区	高橋 貴子	F	DH	荒川区	荒川区保健所健康推進課	
	特別区	椎名 恵子	F	Dr	江東区	江東区健康部	
	東京都	廣瀬 友美	F	DH	多摩市	多摩市健康福祉部健康推進課	
関東 II	埼玉県	石川 清子	F	DH	県出先	埼玉県狭山保健所	
	神奈川県	中條 和子	F	Dr	県庁	神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課	
東海	岐阜県	高橋 秀徳	M	Dr	県庁	岐阜県健康福祉部医療整備課	
	静岡県	中村 宗達	M	Dr	県庁	静岡県健康福祉部医療健康局	
	愛知県	坪井 信二	M	Dr	県庁	愛知県健康福祉部健康対策課	
	三重県	石濱 信之	M	Dr	県出先	三重県津保健福祉事務所	
近畿	滋賀県	井下 英二	M	Dr	県出先	滋賀県甲賀保健所	
	京都府	藤野 あかね	F	Dr	府庁	京都府健康福祉部健康対策課兼医療課	
	大阪府	西田 伸子	F	Dr	府庁	大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課	
	兵庫県	渡辺 雅子	F	Dr	神戸市	神戸市保健福祉局健康部地域保健課	
	奈良県	堀江 博	M	Dr	県庁	奈良県健康福祉部健康づくり推進課	
	和歌山県	得津 康子	F	DH	県出先	和歌山県御坊保健所	
中国・四国	鳥取県	田中 由美	F	DH	県庁	鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課	
	島根県	梶浦 靖二	M	Dr	県庁	島根県健康福祉部健康推進課	
	岡山県	河本 幸子	F	Dr	岡山市	岡山市保健所保健課	
	広島市	谷 尚美	F	DH	県庁	広島県健康福祉局健康対策課	
	山口県	矢野 淳也	M	Dr	県庁	山口県健康福祉部健康増進課	
	徳島県	石井 容子	F	DH	徳島市	徳島市保健センター	
	香川県	田中 玲子	F	DH	三豊市	三豊市役所健康課	
	愛媛県	高橋 直樹	M	Dr	県庁	愛媛県中予地方局健康福祉環境部健康増進課	
	高知県	野々瀬 莉加	F	DH	県出先	高知県安芸福祉保健所健康障害課	
	九州・沖縄	福岡県	十亀 輝	M	Dr	県出先	福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所
		佐賀県	小川 千秋	F	DH	県出先	佐賀県佐賀中部保健福祉事務所
長崎県		重政 昭彦	M	Dr	県庁	長崎県福祉保健部国保・健康増進課	
熊本県		井上 秀代	F	DH	県庁	熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課	
大分県		大津 孝彦	M	Dr	県庁	大分県健康対策課	
宮崎県		森木 大輔	M	Dr	県庁	宮崎県健康増進課	
鹿児島県		比良 ゆかり	F	DH	県庁	鹿児島県保健福祉部健康増進課	
沖縄県		玻名城 恭子	F	Dr	県出先	沖縄県八重山福祉保健所	

(2013.3.1現在)

平成24年度も終わり、私も無事に4年の任期を全うすることができました。これも偏に、事務局の安藤先生、役員、理事のみなさま方のご努力のおかげと、この場をお借りして心から感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

さて、新年度に向けて新しい役員が決まりつつあります。会員それぞれのお立場で行歯会を大いに活用していただき、「世界に誇れる日本の歯科保健」を会員みんなで目指していきましょう。これまでも、これからも……

【編集後記】

年が明けるとあっという間に3月が来て、年度末になってしまうようです。異動の季節ですね……。今回は2、3月の合併となりました。会員の皆様にはご迷惑をお掛けし申し訳ございません。記事の内容につきましては、さらなる充実を図ってまいります。(I)

編集が大変遅くなり、行歯会だよりを楽しみにしていらっしゃる皆様、記事を提供いただきました先生方、本当に申し訳ありません。(H)